



## 秋田とのご縁

〔秋田市観光クチコミ大使〕

東日本旅客鉄道(株) 大宮支社事業部長

まつもと 松本 実氏

秋田に赴任したのは2007年10月、秋田わか杉国体が開催された時期でした。それから2017年6月に現在のJR大宮支社に異動するまで、約10年にわたり秋田で生活しました。

この間、公私ともに多くの皆さまに大変お世話になり、沢山の恩恵をいただきました。当時の様々なエピソードを思い起こしながら、感謝の意を深くしているところであります。

私は隣県の山形で生まれ育ちました。幼少の頃、短い期間でしたが、父が茨島の流通団地にある卸会社に転勤となり、私も一度だけ秋田を訪れたのを憶えております。その時に見た景色を辿りながら、長い時間が経過したことを実感し、遠い日を懐かしむこともありました。

私は当初、3年の辞令を受けてJR東日本から秋田ステーションビル(株)に出向し、秋田駅ビル「トピコ&アルス」の魅力向上を図る役割を担いました。予定の3年が過ぎて4年目に入り、両館のテコ入れ策を積み重ね、その仕上げとして「トピコ」1階に「秋田駅前産直市場」の開設準備を進めている中で、東日本大震災が発生しました。2011年3月11日、翌週16日に開業する「産直市場」をABS秋田放送様の番組で生中継する打合せの最中、激震に見舞われました。混乱が続く先を見通せない状況において、難しい対応となりましたが、「産直市場」を予定通り開業した結果、新鮮な食材を求めて多くのお客さまが来店され、災禍を乗り越える気持ちを強く持つことができました。翌月29日、49日ぶりに秋田新幹線が東京～秋田駅間で運行を再開した際、「こまち、おかえりなさい！」と手を振り熱烈に迎え入れてくれた沿線の皆さまの姿にも元気をいただきました。自分のできることはやり尽くしたつもりでしたが、ここからが本当のスタートだと思い直しました。

その後、秋田新幹線に最新鋭の車両「E6系スーパーこまち」が投入され、2013年10月には秋田デス

ティネーションキャンペーンが開催されました。観光振興及び駅を中心とした開発事業を推進する当社の取組みと地方創生の政策が重なり合うことから、2015年9月に秋田県・秋田市・JR秋田支社の3者で「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」が締結され、2017年4月、オール秋田による「ノーザンステーションゲート秋田」プロジェクトが本格始動するに至りました。

本年3月、久々に秋田駅前を訪れてみると、JR秋田支社ビルの跡地にはプロジェクトの象徴ともいえるABS秋田放送様の新社屋に電波塔が新たなランドマークとして聳え立ち、東口のプラチナタウン計画も着実に進展しておりました。取り壊し前のJR秋田支社ビルから花火を打ち上げたイベントのことが思い出され、感慨深いものがありました。これらのことに多少なりとも関与できた経験が自分の仕事人生の糧となっております。

震災直後の4月に生まれた長女も8歳になり、「私は秋田出身だ」と誇らしげにしております。生後3カ月で移住した次男は、季節の休みのたびに「秋田に帰省したい」とせがんできます。子供たちにとっては秋田が故郷ですし、私にとっても、秋田の思い出が何より貴重な財産です。これからも秋田とのご縁に感謝しながら、秋田の皆さまのご活躍を励みとして、自分の限界を超えられるように至らずとも力を尽くして参ります。

### ■略歴

- 1970年 山形県山形市生まれ
- 1993年 東北大学 文学部卒業
- 〃 年 東日本旅客鉄道株式会社 入社
- 2007年 秋田ステーションビル株式会社 出向
- 2011年 〃 代表取締役社長
- 2015年 東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社  
地域活性化推進部長
- 2017年 〃 大宮支社 事業部長